

第170回 上級 工業簿記①

問1 第1工程製造間接費率 (1,040) 円/時間 ⑧

問2

材 料

前月繰越	(算定不能)	(第1工程仕掛品)	(38,896,000)	⑥
諸口	(⑥ 39,878,400)	(材料消費価格差異)	(算定不能)	
		次月繰越	(算定不能)	

問3

第1工程仕掛品

前月繰越	(④ 3,415,040)	(第2工程仕掛品)	(44,384,000)	④
材料	(38,896,000)	諸口(原価差額)	(246,040)	②
第1工程賃金	(② 3,555,000)	次月繰越	(4,336,000)	④
第1工程製造間接費	(3,100,000)			

問4

借方勘定科目名	借方金額	貸方勘定科目名	貸方金額	
材 料 数 量 差 異	96,000	第1工程仕掛品	96,000	⑥

問5

借方勘定科目名	借方金額	貸方勘定科目名	貸方金額	
第1工程賃率差異	15,000	第1工程仕掛品	70,200	⑧
第1工程労働時間差異	55,200			

問6

借方勘定科目名	借方金額	貸方勘定科目名	貸方金額	
第1工程予算差異	20,000	第1工程仕掛品	79,840	⑫
第1工程変動費能率差異	36,800			
第1工程固定費能率差異	11,040			
第1工程操業度差異	12,000			

○数字は予想配点

第170回 上級 工業簿記②

問7

第2工程仕掛品

前月繰越	(③ 2,841,165)	(製 品)	(47,990,820) ④
(第1工程仕掛品)	(③ 44,384,000)	第2工程異常減損費	(317,820) ④
第2工程賃金	(3,060,000)	諸口(原価差額)	(89,475) ③
第2工程製造間接費	(2,907,600)	次月繰越	(4,794,650) ③

問8

借方勘定科目名	借方金額	貸方勘定科目名	貸方金額
第2工程労働時間差異	11,375	第2工程仕掛品	3,375
		第2工程賃率差異	8,000

⑧

問9

- (a) (実 際 消 費) , (b) (標 準 単 価)
(c) (実 際 消 費 量) , (d) (購 買)
(e) (製 造) 各②

第170回 上級 原価計算①

問題1

問1

- ① F A化・C I Mなどの生産設備の活用、顧客ニーズの多様化による多品種少量生産が進み、直接労務費は減少し、キャパシティ・コストや支援活動にともなう製造間接費の割合が増大した。そのため、生産量をベースにするような配賦基準を用いた伝統的原価計算では正確・迅速な製品別配賦ができなくなった。⑧

②

①	ユニットレベル活動	③
②	バッチレベル活動	③
③	製品支援活動	③
④	施設支援活動	③

- ③ 問題点： 伝統的原価計算では、支援活動が少なくても生産量の大きい製品に多くの間接費が配賦されてしまう原価の内部相互補助が生じやすい。⑧

問2

①

活 動	配賦額 (円)	
契 約	980,000	④
発 注	1,734,000	④
受入検収	812,000	④
検 査	584,000	④

②

製 品	配賦額 (円)	
P	2,374,878	④
Q	1,735,122	④

問題2

問1

①	12,750,000	円	④
②	62.5	%	④
③	1.6		④
④	10,540,000	円	②

④の計算プロセス： 営業利益増加率： $15\% \times 1.6 = 24\%$

営業利益：8,500,000円 $\times 124\% = 10,540,000$ 円

全体で②

○数字は予想配点

第170回 上級 原価計算②

問2 ① 損益分岐点比率 % ⑧

② (強まる ・ 弱まる) ③

根拠： その値が大きいほど安全性の高い安全余裕率（＝1－損益分岐点比率）が、本年度よりも大きくなるからである。 ⑥

問題3

Xの生産量 個 ⑤

Yの生産量 個 ⑤

売上高営業利益率 % ⑤